

党大会を迎える習近平政権の動向

東京大学大学院教授
高^{たか}原^{はら}明^{あき}生^お

- *党大会で政策に変化はない模様
- *北京冬季五輪演出にみる中国の変化
- *中露による共同声明の読み方
- *ウクライナ侵攻を巡る温度差
- *中露の抱く世界観の類似性
- *権力闘争を予感させる中国内部の異論
- *ゼロコロナ政策を変えない習近平
- *中国による台湾問題への対応
- *ロシア非難決議に参加しない国々について
- *インドの対応から学ぶべきは何か



柴生田 それでは開会いたします。（拍手）
夏がやっと終わりました、ちょっと天候がまだ不順でございますが、また毎週開催いたしましたと思っております。

本日は少し久しぶりになりましたが、東京大学の高原先生に中国の話をしていただきます。先ほどちょっと控室でお話をしていただきましたが、やっぱり情報がなかなか入らないということでご苦労されておられるようでございます。

もう何度もおいでいただいておりますので、改めて個人的な紹介の必要はないかもしれませんが、1958年のお生まれで、東京大学を卒業されたほか、サセックス大学で博士号を取られ、その後、桜美林大学、立教大学を経て、現在東京大学で教鞭を取っております。私ど

も何人か中国の問題についてお話をしたいという方がおられるわけでございますが、やはりいちばん信頼のおける中国の分析をされるということで今日もおいでいただきました。

（拍手）
それでは先生、よろしく願いました。

党大会で政策に変化はない模様

高^{たか}原^{はら} 皆さんこんにちは。どうぞよろしく願いました。

ちょうど今年が党大会の年ですね。先般、1週間ぐらい前のことだと思いましたが、10月16日から党大会が開かれるということではないタイミングとも言えると思いますが、今柴生田さんからお話がありましたとおり、なかなか情報が入